

沖縄県那覇市首里方言の原因・理由表現 —「クトゥ」と「ムンヌ」を中心に—

仲原 穰

(1) はじめに

首里方言の原因・理由表現のうち、よく使用される形式について報告する。首里方言の原因・理由表現には「クトゥ〈から／ので〉、カラ〈から／ので〉、シニチーテー(シンチーテーとも)〈であるから／であるので〉、ヌ〈から／ので〉、ムンヌ〈のだから〉、ムヌ〈ので〉、ヤクトゥ〈だから／なので〉、デームン〈だから〉、アンスクトゥ〈だから〉、タミニ〈ために〉、ンディ〈ために〉、ウカジニ〈おかげで〉、ユイニ〈ゆえに〉」などがある。これらのうち、「原因・理由表現 挙通調査項目」をもとに調査すると、当該方言の「から」「ので」「だから」に相当するのは「クトゥ、ヤクトゥ、アンスクトゥ」であることがわかった。また、調査項目によっては「のだから、ので、のに」に相当する「ムンヌ」が使用されることがわかった¹。

(2) 調査の概要

(2)-1 調査地概況

首里はかつて琉球国の国王が居城とした首里城の城下町として栄えたところであった。首里は沖縄島南部の中央部に位置し、天気の良い日には那覇の港や沖縄島南部の街並み、周辺の島々まで見渡すことができる。19世紀後半のいわゆる「琉球処分」によって、琉球藩を経て沖縄県となり、古都首里も首里市となった。後に那覇市と合併し、現在は那覇市の一部となったが、現在でも琉球の文学や芸能(琉歌・組踊など)が首里方言を基盤にしているため、琉球方言のなかでも那覇方言などと共に代表的な方言の一つである。

(2)-2 話者情報

A氏…男性、1932(昭和7)年生まれ。元国家公務員。首里在住。定年退職後は趣味である野菜作りをする一方で大学の非常勤講師もしている。方言の研究会で中心的な役割を担うなど、方言に対して深い愛情を持つ。なお、首里方言は家柄によりやや方言が異なっているが、話者は土族系統の家柄で育っている。

(2)-3 調査概況

調査日：2006年11-12月、2007年12月、2008年1月に実施。

調査場所：すべて沖縄県立芸術大学附属研究所でおこなった。

調査方法：調査者(筆者)が調査票を読み上げ、話者に答えてもらう方法(面接法)で行った。

具体的には、話者に事前に調査票を渡し、ある程度内容を理解してもらい、その上

¹ その他の「タミニ、ンディ、ウカジニ、ユイニ、シニチーテー、ヌ」について概略する。まず、「ンディ」は、動詞尾略形に接続し、「タミニ、ウカジニ、ユイニ」は動詞連体形や助詞「ガ/ヌ〈の〉」、代名詞などに接続する。「シニチーテー」は動詞連用形

古風な言い方で通常の会話ではあまり用いられない。具体的には以下のように用いられる。

A：チカグロー メーナチ アミヌ フィンヤー。(近頃は毎日雨が降るね)。

B：ウス {タミニ}、アレームノー カーラカンナティ スクェー スンヤー。(その {ために}、洗濯物は乾かなくて困るね)。

ピンチョー {スンディ}、ガッコーンカイ チャン。(勉強 {するために}、学校に来た)。

アミヌ フタル {ユイニ}、アレームノー カーラチャーウラン。(雨が降った {ゆえに}、洗濯物は乾いていない)。

アンチュガ イミソーチャル {ウカジニ}、トゥク ナトッサー。

(あの方がおっしゃった {おかげで}、得 (に) になっているよ)。

で調査者が標準語例文を読み上げて話者に口答してもらう方式である。その際、調査者が話者の口答を記述し、文字化した。その後、その方言訳を話者に見せ、他の形式が使えるかどうかを確認し、音声を録音した。

(3) 表記について

表記は音声記号ではなく、音韻的カタカナ表記を用いた。[ʔj]を「イ」、[i]～[ji]を「イイ」、[ʔu]を「ウ」、[u]～[wu]を「ウウ」と表記した。また、半母音[j]を含む「ヤ」行や[w]を含む「ワ」行、撥音/N/ ([m] [n] [ɲ] [ŋ] [N]) 「ン」などに声門閉鎖音[ʔ]が先立つ場合は「ッ」を付した(例：[ʔjun]=ツユン〈言う〉)。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因

- 1-1-1 メーナチ アミヌ フイクトウ, アレームノー カーラカン。
 〈毎日雨が降るから, 洗濯物は乾かない。(動詞述語)〉
- 1-1-2 メーナチ アミヤクトウ, アレームノー カーラカン。
 〈毎日雨だから, 洗濯物は乾かない。(名詞述語)〉
- 1-1-3 ティンチヌ ユタサ {クトウ/ヌ}, アレームノー ユー カーラチュン。
 〈天気がいいから, 洗濯物はよく乾く。(形容詞述語)〉
- 1-1-4 クヌ ジヤシチュー シジカヤクトウ, シクチュー ユー ナイン。
 〈この部屋は静かだから, 仕事はよくできる。(形容動詞述語)〉
- 1-1-5 ユービ ウーアミヌ フタクトウ, ジーヤ ミジタマイ ナトーン。
 〈タベ大雨が降ったから, 地面に水たまりができています。(動詞述語)〉
- 1-1-6 ワラビヤクトウ, ワカラタン。
 〈子どもだから, わからなかった。(名詞述語)〉

1-2 行為の理由

- 1-2-1 ドゥーヌ アンベヌ ワッサクトウ, シクチュー ヤシムルクトウンカイ サン。
 〈体調が悪いから, 仕事は休むことにした。(叙述)〉
- 1-2-2 ドゥーヌ アンベヌ ワッサクトウ, チューヤ シグトー ヤシマ。
 〈体調が悪いから, 今日は仕事は休もう。(意志)〉
 注:「シグトー」は「シグトウ〈仕事〉」+「ヤ〈は〉」が音変化したもの。
- 1-2-3 ユルミチュー クラサクトウ, マジュン ケーラ。
 〈夜道は暗いから, 一緒に帰ろう。(勧誘)〉
- 1-2-4 アカングッヌ ニントークトウ, シジカニ シェー。
 〈赤ん坊が寝ているから, 静かにしろ。(命令)〉
- 1-2-5 アカングッヌ ニントークトウ, シジカニッシ トウラシェー。
 〈赤ん坊が寝ているから, 静かにしてくれないか。(依頼)〉
- 1-2-6 アミヌ フイクトウ, カサ ムッチ イケー。
 〈雨が降るから, 傘を持って行け。(命令)〉

1-3 判断の根拠

- 1-3-1 フシヌ ッンジトークトウ, アチャン イイー ッワーチチ ナイラハジ。
 〈星が出ているから, 明日もいい天気(に)なるだろう。〉

- 1-3-2 フィジャイヌ イービンカイ イービナギー サチョークトウ, ニービチ ソーン
 ヨー。
 〈左手の指に指輪を挿しているから, 結婚しているよ。〉
- 1-3-3 サックィーヌ ッンジトーイ, ニチファーファー ソークトウ, ハナシチ カカトー
 ラハジ。
 〈咳が出ていて, 発熱しているから, 風邪(に) かかっているはずだ。〉
- 1-3-4 ナマサチ シンブンハイタツヌ ウトウヌ ステークトウ, エーディン, ナー グジ
 ヌー シジトーラハジ。
 〈つい先ほど新聞配達の声がしていたから, おそらく, もう5時は過ぎているだろう。〉

1-4 発言・態度の根拠

- 1-4-1 ウカーサクトウ, クヌ カーラウウテ, アシバンケー。
 〈危ないから, この川では遊ぶな。〉
- 1-4-2 ハナシチ カカテ ナランクトウ, チノー カサビティ チチ イキョー。
 〈風邪をひくといけないから, 着物は重ねて着て出かけなさいよ。〉
- 1-4-3 チューヌ シグトー ムル ウワトウクトウ, ナー ケーラ。
 〈今日の仕事は全部終わっているから, もう帰ろう。〉

1-5 理由を表さない用法

- 1-5-1 シグ ムドゥティ チュークトウ, クマウウティ マッチョーティクィレー。
 〈すぐにもどってくるから, ここで待っていてくれ。〉
- 1-5-2 チュケーンッシ シムクトウ, ピラミッドンカイ ヌブティンージブサン。
 〈一度でいいから, ピラミッドに登って見てみたい。〉
- 1-5-3 ウニゲー サビークトウ, ジン カラチ クィミソーレー。
 〈お願いしますから, お金を貸してください。〉
 注:「カラスン〈貸せる〉」で「貸す」を意味する。
 注:お金を貸してもらう方が出してもらう相手に対して話者は「ヤクトウ〈だから〉」は言えないとい
 う。よって丁寧表現の「サビークトウ〈しますから〉」とした。
- 1-5-4 クルマ ユディトウラスクトウ, シグ ビョーイヌンカイ イケー。
 〈車を呼んであげるから, すぐ病院に行きなさい。〉
 注:テ形+トウラスンは直訳すると「～してとらす」だが,「～してあげる」の意。命令形「～してく
 れ」は「～ッシトウラシエー」となる。
- 1-5-5 ツクエヌ ウィーンカイ ウチエークトウ, ワー ジンイリー トウティクィラン
 ナー。
 〈机の上においてあるから, 私の財布を取ってこないか。〉

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

- 1-6-1 A: ブックチ ヤン。
 〈気分が悪い。〉
 B: アングトウ ウフオーク ヌムクトウヤー。
 〈あんなにたくさん飲むからね。〉
 注:ブックチはブククチ〈不機嫌〈「不心地」〉から音変化した語。

1-6-2 A: チューヤ デパートー ッチュヌ ウフオーク イッチョーンヤー。

〈今日はデパートは人が多く入っているね。〉

B: ニチヨービヤクトウ (ドウ) ヤラハジヤー。

〈日曜日だから (ぞ) だろうね。〉

注: 話者は強調の係助詞「ドウ」(ぞ (こそ)) を入れた方がよいという。以下、同様の場合には括弧で括って示す。

1-6-3 A: チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いね。〉

B: ッヤーガ ジルーヌ クトウビカージ フミークトウ (ドウ) ヤガヤー。

〈おまえが次郎のことばかりほめるから (ぞ) かな?〉

B': ッヤーガ ジルーヌ クトウ ビカージ フミールクトウカラー アランガヤー。

〈おまえが次郎のことばかりほめることからではないかな?〉

注: 「カラー」は用言の連体形, あるいは「クトウ」に下接する。なお, 今回の調査では「カラ」が単独で使用された資料は得られなかった。なお, 「カラー」は接続助詞「カラ」に係助詞「ヤ」が融合したもので「からは」に相当する。

1-6-4 A: チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いね。〉

B: ワーガ ジルーヌ クトウビケージ フミークトウ (ドウ) ヤガヤー。

〈私が次郎のことばかりほめるから (ぞ) なのかな。〉

B': ワーガ ジルーヌ クトウビケージ フミールクトウカラー アランガヤー。

〈私が次郎のことばかりほめることからではないかな?〉

1-6-5 A: チカグロー, タルーヌ チジンヌ ワッサンヤー。

〈近頃は, 太郎の機嫌が悪いね。〉

B: ジルービケージ フミラリールクトウカラー アランガヤー。

〈次郎ばかりほめられるからじゃないかな。〉

1-6-6 A: ヤーウーチーヌ アトゥカラ, パソコンヌ アンバーヌ ワッサン。

〈引っ越しの後から, パソコンの調子が悪い。〉

B: ウレー, エーディン ハクブルバスニ ウトゥチャクトウ (ドウ) ヤラハジドー。

〈それは, きっと運ぶときに落としたから (ぞ) のはずだ。〉

B': ウレー, エーディン ハクブルバスニ ウトゥチャルクトウカラー アランガヤー。

〈それは, きっと運ぶときに落としたことからじゃないかな。〉

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

1-7-1-1 チューヌユロー アミヌ フィンディ ッユクトウ, フェーベートウ ケーラ。

〈今夜は雨が降るというから, 早めに帰ろう。〉

注: 「降るというから」の語形でしか回答が得られなかった。

1-7-1-2 チューヌユロー アミヌ フィンディヌ クトウヤクトウ, フェーベートウ ケーラ。

〈今日の夜は雨が降るとのことだから, 早々と帰ろう。〉

1-7-1-3 チューヌユロー アミヌ フィギサー ヤクトウ, フェーベートウ ケーラ。

〈今日の夜は雨が降りそうだから, 早々と帰ろう。〉

- 1-7-1-4 スーガヤラ ニチヌ ッンジトールフージヤクトウ, フェーベートウ ケーイルクトウ
ウンカイ サン。
〈どうやら熱が出ているようだから, 早々と帰ることにした。〉
- 1-7-1-5 アミヌ フィガ スラ ワカランクトウ, カサ ムッチ チャン。
〈雨が降るかどうか分からないから, 傘を持ってきた。〉

1-7-2 推量表現

- 1-7-2-1 アミヌ フィラハジ ヤクトウ, カサ ムッチイキ。
〈雨が降るはずだから, 傘を持っていけ。〉
注:「～ハジヤクトウ」は「～だろうから」と意識できる。直訳は「～はずだから」。
- 1-7-2-2 ヤマウウテー ユチヌ ウフォークフトータラハジヤクトウ, ナダレヌシワ ヤッ
サー。
〈山では雪が多く降っていたはずだから, 雪崩が心配だ。〉
- 1-7-2-3 ウーブイェー サン ハジヤクトウ, カサー ムッチェー イカン。
〈大降りほしなはずだから, 傘は持つてはいかない。〉
- 1-7-2-4 フカー フィーサラ ハジヤクトウ, チノー カサビティ ッンジラ。
〈外は寒いはずだから, 着物を重ねて出かけよう。〉
- 1-7-2-5 ナマヌヨーシカラシーネー アチャン アミ ヤラハジヤクトウ, エンスコー トウ
イヤミンカイ ナイラハジ。
〈今の様子からすると明日も雨(の)はずだから, 遠足は取り止めになるだろう。〉

1-7-3 丁寧表現

- 1-7-3-1 イフェー ウファナシヌ アイビークトウ, クマンカイ ッウエンソーチ ウタビミ
シェービリ。
〈少しお話がありますので, ここにいらっしゃってください。〉
- 1-7-3-2 ウカーサイビークトウ, ヌイムヌンカイ アッタニ ヌイシェー ヤミヤビラ。
〈危険ですので, 乗り物に急に乘るのはやめましょう。〉
- 1-7-3-3 ッンマリジマカラ フタウヤヌ チャービークトウ, チューヤ イフェー フェーク
ケーラチ ウタビミシェービリ。
〈生まれ故郷から両親が来ますので, 今日は少し早めに帰らせてください。〉
注:「ッンマリジマ〈うまれ島〉」の「シマ」は「島」そのものも意味するが,「集落」や「故郷」を表
す場合も使用される。「縄張り」を意味する「しま」と関わりがあると思われる。なお, 沖縄以外で製
造された品物と沖縄県産品を区別する際にも「シマサバ〈島草履〉」,「シマザキ(シマジヤキとも)〈島
酒〉」,「シママース〈島塩〉」などのように用いる。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

- 1-8-1-1 クマウウテイ イットウチェー マッチョーケー。 シグ ムドゥティチュークトウ。
〈ここでちょっと待っておけ。すぐもどって来るから。〉
- 1-8-1-2 イチュター ゴセンエン カラチクィレー。 チチシーマディニ ケースクトウ。
〈ちょっと, 5千円貸してくれ。月末までに返すから。〉
- 1-8-1-3 エキマディ ンケーイガ ッチトウラシェー。 シチジマディニ チチュクトウ。

〈駅まで迎えに来てくれ。7時までに着くから。〉

1-8-2 終助詞的用法

1-8-2-1 アトゥカラ, ナー チュケーン デンワ スクトウヨー。

〈あとで, もう一度電話するからね。〉

注:「スクトウヨー」は調査項目を直訳したもの。自然な言い方は「スサ〈するよ〉」。

1-8-2-2 イットウチェー フカンカイ ッンジチューシガ, オヤツ, プリノー レーゾーコンカイ イッテークトウヨー。

〈ちょっと外に出かけてくるけど, おやつ, プリンは冷蔵庫に入れてあるからな。〉

1-8-2-3 ッヤー クトー チャーシン ワシラランクトウヨー。

〈君のこと決して忘れられないからね。〉

1-8-2-4 ターリーンカイ ウンニューキークトウヨー。

〈お父さんに申し上げるからね。〉

1-8-2-5 ゴジマディ エキメーヌ キッサテヌンカイ ウウクトウヨー。

〈5時まで駅前の喫茶店にいるからね。〉

1-8-2-6 イットウチェー, スーパーマディ コーイムンシーガ ッンジチュークトウヤー。

〈ちょっと, スーパーまで買い物に行ってくるからね。〉

1-8-2-7 ヤクスク ヤンジナー, チャーガ ナイラ ワカラנקトウヨー。

〈約束を破ったら, どうなるかわからないからな。〉

注:「ワカラנקトウヨー」は調査項目の直訳にあたる。「ワカランドー〈わからないぞ〉」が自然な言い方。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

2-1-1a ジカンヌ ネーンクトウ {イスジャン/イスガ/イスゲー}。

〈時間がないから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。〉

2-1-1b ジカンヌ ネーンムヌ {イスジャン/イスガ/イスゲー}。

〈時間がないんだから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}。〉

2-1-2 ティンチヌ ユタサルムヌ アッチャーアッチャーッシチャン。

〈天気がいいんだから散歩してきた。〉

2-1-3 メーナチ アミヌ フィルムヌ アレームノー カーラカン。

〈毎日雨が降るんだから洗濯物が乾かない。〉

2-1-4 ユービ ウーアミヌ フトータルムヌ ジーンカイ ミジタマイヌ ディキトーン。

〈夕べ大雨が降ったんだから地面に水たまりができています。〉

2-2 意味・用法

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

2-2-1-1 クングトウ チバテークトウ, エーディン クンドー ユー ディキトーエーサニ。

〈こんなに頑張ったから, きっと今度はうまくできているはずだ。〉

2-2-1-2 カンヌーナ ハナシ ソークトウ, ワラベー アマンカイ ッンジョーケー。

〈大事な話をしているから, 子どもはあっちへ行っちなさい。〉

2-2-1-3 ワンネー チムククルカラヤクトウ, ナバクンナケー。

〈私は真剣だから、からかうな。〉

注:「チムククルカラ」は「心から」にあたる語。調査項目の「真剣」では回答を得られなかった。話者は「ヌチカジリ(命懸け)」でも可能という。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

2-2-2-1 ッヤーヤ ワカサクトウ, チュケン タケンヌ シーヤンジ サンディチ ウミー ヤミー スナケー。

〈君は若いから, 1度や2度の失敗をしたからと行ってくよくよするなよ。〉

注:「シーヤンジ」は「することが破れ(た状態)」なので「失敗」の意となる。

2-2-2-2 ジュケンシーヤクトウ, ナーフィン ハマティ ビンチョー シェー。

〈受験生だから, もっと一生懸命勉強しろ。〉

2-2-2-3 シッカクヌ リューガクストウ, チェントウビンチョーッシ クーヨー。

〈せっかく留学するから, ちゃんと勉強して来いよ。〉

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

2-2-3-1 ジカノー ナーダ ユーユートウ アクトウ, ヨーンナー ユクティ ッンジクイレー。

〈時間はまだ十分あるから, ゆっくり休んでいってくれ。〉

2-2-3-2 ウンナ バスン マタ アクトウ, イジ ッンジャシェー。

〈そんな機会もまたあるから, 元気を出せ。〉

2-2-3-3 ヤガティ タイイン ナイクトウ, ナー イフィグワーヌ ニジークネードウ ヤエーサニ?

〈もうじき退院できるから, もう少しの辛抱(ぞ)じゃないか。〉

2-2-4 倒置

2-2-4-1 ドゥーヤ テーシチニ シーヨーヤー。ナー ワカコー {ネーンドウアクトウ/ネーランムンヌ}。

〈体に気をつけろよ。もう若くはないんだから。〉

2-2-4-2 ドゥークル サダミレー。ナー ワラベー {アランクトウ/アランムンヌ/アランドウ アクトウ}。

〈自分で決めろよ。もう子どもじゃないんだから。〉

2-2-4-3 ウレー シワ スンヨー。ウヤ {ヤクトウ/ヤルムンヌ/ドウ ヤクトウ}。

〈そりゃ心配するよ。親 {だから/なので}。〉

2-2-5 終助詞的用法

2-2-5-1 ワンネー, カンナジ アリトウドウ ニービチ {スクトウ/スルムンヌ/シードウ スクトウ}。

〈私は、必ず彼と(ぞ)結婚するんだから。(決意)〉

2-2-5-2 クマヌ ヤファランケー シーネー, シグ シカシェーフリムヌンカイ {ナイクトウ/ナイルムンヌ/ナイドウ スルムンヌ}。

〈こっちが甘い顔をすると、すぐ調子にのるんだから。〉

- 2-2-5-3 アヌ ウィキガー アンスカナー, サキグシヌ {ワツサクトゥ/ワツサルムンヌ/ワツサドゥ アクトゥ}。
 〈あの男ときたら, まったく酒癖が悪いんだから。〉

3 接続詞「だから」の用法

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ, 前件・後件が同一の話し手によるもの

- 3-1-1 チカグロー メーナチ アミヌ フトーン。 {ヤクトゥ/アンスクトゥ} アレームノー カーラカン。
 〈近頃は毎日雨が降っている。だから洗濯物が乾かない。〉
- 3-1-2 ナー ヤーカラ ッンジール サンジュップン メードー。 {ヤクトゥ/アンスクトゥ} フェーク ウキリ。
 〈もう家を出る時間の30分前だ。だから早く起きなさい。〉
- 3-1-3 シグ ムドゥティ チューサ。 アンスクトゥ² クマウゥティ マッチョーティクィレー。
 〈すぐにもどってくる。だからここで待っていてくれ。〉

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ, 前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け, それから導かれる帰結Qを述べるもの

- 3-2-1-1 A: チカグロー メーナチ アミヌ フィンヤー。
 〈最近毎日雨が降るね。〉
 B: ヤンヤー。 {ヤクトゥ/アンスクトゥ} アレームノー カーラカンナティ スクェー チョーサ。
 〈うん。だから洗濯ものが乾かなくて困るよ。〉
- 3-2-1-2 A: チューヤ アミヌ フィンディヤー。
 〈今日は雨が降るそうだね。〉
 B: {ヤクトゥ/アンスクトゥ} カサ ムッチ イキヨー。
 〈だから傘を持っていきなさい。〉

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

- 3-2-2-1 A: デーヂナトーン。 アミヌ フティチョーン。
 〈大変だ。雨が降ってきた。〉
 B: ×ヤクトゥ ヌーヤガ? / ×ヤクトゥ ヌーガヌーンチ? / ヌーンチガ? (ヌーガ? / ヌーグトゥガ?)³
 〈だからどうしたと言うの? / だから何なの? / どうして?〉

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが, 既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

- 3-2-3-1 A: ヤンジグトゥヌ アヤーニ デンシャー ウクリトーンディドー。

² 前件で理由を表さない場合, ヤクトゥは使えない。しかし, 代名詞を含むアンスクトゥの方は使用できる。

³ ここでは「ヤクトゥ」を省略する方が自然な言い方。逆に「ヤクトゥ」を入れるとAに対してけんか腰な言い方(さらに「ヤクトゥンチ(だからって)」を使用すると, より相手に不快感を与える)である。通常は疑問詞ヌー(何)やヌーンチ(何故)でAの発話の意図を汲み取ろうとする。

〈事故があって電車は遅れているそうだよ。〉

B: アンヤミ。 {ヤクトゥ (ドゥ) / アンスクトゥ (ドゥ)}, ンナー ナーダ クー
ンサヤー。

〈そうか。だから (ぞ), みんなまだ来ないんだ。〉

3-2-3-2 {アンスクトゥ / カンナイクトゥ⁴} ナガヤシミネー フカンカエー ッンジープシ
コー ネーン (ドゥ) アンデー。

〈{ああだから / こうなるから} 連休に出かけるのは嫌で (ぞ) ある (嫌なんだ)。〉

3-2-3-3 {アンスクトゥ (ドゥ) / アンヤクトゥ (ドゥ)} ナガヤシミネー フカンカエー ッ
ンジープシコー ネンドゥ アンデー。

〈ああだから (ぞ) 連休に出かけるのは嫌で (ぞ) ある (嫌なんだ)。〉

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定す
るもの。

3-2-4-1 {ヤクトゥ / アンスクトゥ} ヤミトーキンディ {イチャンドー / イチャエーサニ /
イチャノーアラニ}。

〈だから, やめておけと {言ったのだ / 言っただろう / 言ったじゃないか}。〉

3-2-4-2 {ヤクトゥ / アンスクトゥ} スナンディ イチャノーアラニ。

〈だから, するなと言ったじゃないか。〉

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し
手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1 A: キッサ タヌダル シグトー, チヤントゥ ッシクイリヨーヤー。

〈さっき頼んだ仕事, ちゃんとやってね。〉

B: イー, チューフィッチーネー スサ。 ナマー イフェー イチュナサクトゥ ナ
ランドゥ アンデー。

〈うん, 今日中にはやるよ。今ちょっと忙しいからできないんだ。〉

A: アチャマディネー ッシクイリヨー。

〈明日までにはやってくれよ。〉

B: {ヤクトゥ / アンスクトゥ} チューフィッチーネー {スンディ イチョーエー
サニ / スサ}。

〈だから, 今日中には {すると言っているじゃないか / するよ}。〉

3-3-1-2 A: チューヤ タヌミグトゥヌ アティ (ドゥ) チョーサ。

〈今日はお願いがあって来たんだ。〉

B: ヌーヤガ? イチンデー。

〈何だ? 話してみろよ。〉

A: イPPER カンヌーナ クトゥ ヤンドー。

〈とても大事なことなんだ。〉

B: {ヤクトゥ / アンスクトゥ} ハナシッシンデー (ンディ イチョーエーサニ?)。

⁴ 3-2-3-2や3-2-3-3では、通常「アンスクトゥ」を使用するが、「カン (こう)」「アン (ああ)」のように指示代名詞で
言い替えも可能。

〈だから、話してみなさい (と言っているじゃないか)。〉

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A: キッサ タヌダル シグトー, ッシクイティー?

〈さっき頼んだ仕事, やってくれた?〉

B: ンー? ヌーヌ クトウガ?

〈え? 何のこと?〉

A: {ヤクトウ/アンスクトウ}, フィルマーニ タヌダル アヌ シグトウテヤー。

〈だから, 午前中に頼んだあの仕事だよ。〉

3-3-2-2 A: チュー, イーバス タナカサヌンカイ イチャタンヨー。

〈今日, ちょうど田中さんに会ったよ。〉

B: マーヌ タナカサン ヤガ?

〈どの田中さん?〉

A: {ヤクトウ/アンスクトウ}, チヌー ハナシソータル サンチョーミヌ タナカサン (テヤー)。

〈だから, 昨日話していた3丁目の田中さん (だよ)。〉

(4) 「クトウ」と「ムンヌ」

首里方言の原因・理由表現のうち「クトウ」「ヤクトウ」「アンスクトウ」「ムンヌ」を中心に報告した。これらのうち最も使用されるのが「クトウ」「ヤクトウ」であり、その他の表現形式は使用される場面が限られていることが明らかになった。しかし、標準語の「から・ので」や「だから」を当該方言で「クトウ」「ヤクトウ」のみが担うわけではない。ここでは当該方言の原因・理由表現の一つ「ムンヌ」を取りあげてみたい。

「ムンヌ」は「から・ので」ではなく、「のだから」に相当する助詞である。調査項目 2-1-1b の「時間がないだから {急いだ(事実の叙述)/急ごう(意志)/急げ(命令)}」の方言訳でもわかるように、「クトウ」で言い表すことが難しい文でも「ムンヌ」を用いれば言い表すことができる。これは「ムンヌ」が「のだから」以外に「のに」の用法も持ち合わせていることも影響しているだろう。また、2-2-4の「倒置」や2-2-5の「終助詞的用法」は「クトウ」と「ムンヌ」が併用されていることも関係があるろう。「もの」から文法化した「ムンヌ(「ムヌ」も含む)」の発達は、当該方言の「から・ので」と「のだから」の違いを認識しづらくさせた。これにより、1-1-1のような調査項目「毎日雨が降るから, 洗濯物は乾かない。」を方言に訳する場合に「フイクトウ/フイルムンヌ」という二つの回答が得られたことも説明できる(ただし、今回の報告では「から・ので」にあたる「クトウ」系を中心に報告している)。また、この「ムンヌ」と沖縄本島の若年層が使用する「アメフッテルノニ, センタクモン カワカンサー〈雨が降っているから(のに)洗濯物が乾かないよ。〉」との因果関係もあると見られるが、今後稿を改めて論じていくつもりである。

参考文献

- 『沖縄古語大辞典』編集委員会(1995)『沖縄古語大辞典』角川書店
 内間直仁(1994)『琉球方言助詞と表現の研究』武蔵野書院
 国立国語研究所[編](2001[1963])『沖縄語辞典』財務省印刷局

- 高橋俊三 (1991) 「助詞「こと」「もの」考」(『おもろさうしの国語学的研究』武蔵野書院 : pp. 334-354)
- 津波古敏子 (1992) 「沖縄中南部方言」(亀井孝・河野六郎・千野栄一[編]『言語学大事典 セレクション 日本列島の言語』三省堂 : pp. 369-388)
- 仲原 穰 (2001) 「久米島真謝方言の助詞」(内間直仁 編『琉球方言音韻・文法・語彙の研究—周辺諸方言との比較研究も含めて—〈その2〉』千葉大学社会文化科学研究科 研究プロジェクト報告書 第3集 : pp. 51-68)
- 中松竹雄 (1973) 『沖縄語の文法』沖縄言語文化研究所
- 野原三義 (1998) 『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所
- 西岡 敏 (2002) 「沖縄語首里方言の終助詞付き用言語彙資料」(『琉球の方言』26号 法政大学沖縄文化研究所 : pp. 17-46)
- 西岡敏・仲原穰 (2006[2000]) 『改訂版 沖縄語の入門 たのしいウチナーグチ』伊狩典子・中島由美[協力] 白水社
- 宮良信詳 (2000) 『うちなーぐち講座 首里ことばのしくみ』沖縄タイムス社
- 山口明穂・秋山守英 (2001) 『日本語文法大辞典』明治書院